

### 見て！使って！「ESD推進の手引き」

本年5月に、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会から、ESD(持続可能な開発のための教育)推進の手引きの改訂版が出されました。この手引きは、ESDが学校現場に浸透していくことを目標につくられているものです。ESDの取組や指導方法について、初めて学ぶ先生方に対して、ESDの大切さや学校でのESDの具体的な実践方法等を伝える研修や学校全体の取組を進めるために必要な内容等を盛り込み、SDGsや新学習指導要領等を踏まえ、2年前に作成された手引きを改訂したものです。授業に取り入れることができるようにポイントを簡潔にまとめるとともに、Q&A方式で基礎的な事項を端的にまとめてあります。ぜひ、一度、目を通してみてください。

なお、この手引きには、大牟田市の取組も紹介されています。「ユネスコスクールのまち おおむた」として評価していただき、ありがたいことです。次のURLから、ダウンロードできます。  
<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1405507.htm>



**教えて！大牟田のESD** その4

この数年、多くの先生方が大牟田市に採用されています。そこで、ESDの基本的なことについて、再度、確認しましょう。シリーズでお送りしています。

#### Q4 ユネスコスクール担当者会とは何ですか？

市内の全市立学校がユネスコスクールとなっている大牟田市では、全校に校務分掌として、「ユネスコスクール担当者」が位置づけられています。

この担当者は、学校のESDを推進するために、校内外の様々な方々と連携をしています。また、担当者が集まっている「ユネスコスクール担当者会」があり、大牟田市教育委員会の指導の下、様々なユネスコスクールに関わる行事の運営や研修会、ユネスコスクール便りの発行等を行っています。全校がユネスコスクールに加盟している大牟田市ならではの組織です。

### 大牟田市立玉川小学校の実践

#### 食を通して、地域のおよさ・大牟田のおよさを再認識、そして、発信

玉川小学校では、特色のある学校づくり、また、ESDの柱の一つとして、友達、家族、地域の方々など、「人との関わり」を大切に「食育」の充実を推進しています。

1学期は、5年生が地域の方々とともに、「タケノコ掘り」と「タケノコ御飯づくり」にチャレンジしました。食材となるタケノコは、学校に隣接する竹林を所有されている地域の方からの手ほどきを受けて、早朝から子どもたちが、収穫しました。今後は、サツマイモやミカンなど学校や地域でとれた農作物をユネスコスクールの交流校である北海道の留寿都小学校に送り、玉川校区、大牟田のおよさを発信していく予定です。



### 大牟田市立歴木中学校の実践

#### 体験活動を通して、社会に大きく視野を広げ、持続可能な社会の担い手としての生き方を考える

本校では、持続可能な社会の担い手としての生き方を考えるために、1年生では福祉体験学習、2年生では職場体験学習、3年生では保育体験学習を行っています。

昨年度、3年生は、事前学習として「南関こどもの丘保育園」の先生に講話をしていただき、実習へ向けての心構えや注意点について学びました。幼い命を預かることの大切さ、遊具制作で気をつけるべきこと等の大変さを実感した生徒達は、市内7カ所の保育園幼稚園で体験学習をさせていただきました。

生徒の感想として、「2日間はとても充実していて、あっという間に終わりました。一緒に遊んだり、なつかれたりするのがこんなに嬉しくて幸せだと初めて知りました。」とありました。

